

令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立八王子東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 事務局長（総務部主任；主任教諭）、総務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、
総務部主任（主任教諭）、教務部主任（主幹教諭）、生活指導部主任（主任教諭）、
進路指導部主任（指導教諭）、2学年主任（主幹教諭） 計8名
- (4) 協議委員の構成
首都大学東京教授、日野市立日野第四中学校長、八王子市立高倉小学校長、八王子市教育委員会課長、
八王子消防署小宮出張所長、PTA会長、同窓会代表、後援会代表、近隣住民代表 計9名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

- 第1回 令和元年 5月18日（土） 内部委員8名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
- 第2回 令和元年10月12日（土） ※台風のため中止（予定していた内容は下記の通り）※
授業公開、これまでの教育活動に関する報告、本校の防災教育、宿泊防災訓練の報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- 第3回 令和2年 2月15日（土） 内部委員8名、協議委員7名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言・協議、本校の防災教育、
次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

- 第1回 令和元年 5月18日（土） 内部委員8名、協議委員9名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
- 第2回 令和元年10月12日（土） ※台風のため中止（予定していた内容は下記の通り）※
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
- 第3回 令和2年 2月15日（土） 内部委員8名、協議委員7名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、次年度へ向けた提言の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・ 12月 全校生徒	対象：944人	回収：901人	回収率：95.4%
・ 12月 保護者全員	対象：944人	回収：557人	回収率：59.0%
・ 12月 地域・住民	対象：20人	回収：16人	回収率：80.0%
・ 12月 教職員	対象：54人	回収：54人	回収率：100.0%

(3) 主な評価項目

- ・ 探究に関する意識
- ・ 知的好奇心を刺激する取り組み
- ・ 生活指導の方針の明示
- ・ 生徒のマナー・人に迷惑をかけないようにしているかどうか
- ・ 学校行事の楽しさ・充実度
- ・ 部活動の満足度
- ・ いじめや体罰・暴言をなくすための積極的な取り組み
- ・ 学校のホームページ・Twitter・募集対策等の広報活動への取り組み
- ・ 地域連携の取り組み

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・ 生徒、保護者ともに、本校の学習指導・学力向上等に対する満足度、部活動・学校行事に対する満足度は全般的に高いが、前者の2年生の生徒、保護者の満足度は1・3年に比べて若干低い。
- ・ 探究の取り組み及び英語教育についての肯定の回答は、学年が下がるほど高いが、知的好奇心を刺激する取り組みの肯定率は2年・3年の保護者が低い。
- ・ グローバル社会で活躍できる生徒の育成についての肯定率は他項目に比べ低い。
- ・ 募集対策については十分な広報活動ができていないと感じている生徒・保護者が少なくない。
- ・ 登下校のマナーの評価については、生徒と教職員の間で隔たりがみられる。
- ・ 学校は働き方改革を進めているかという質問については否定の回答の割合が高い。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・ 学習活動、進路指導、学校行事、部活動等の項目について、生徒、保護者から高い支持を得ている。探究活動については一定の肯定率があるが、生徒にさらに理解を深めさせる工夫が必要である。
- ・ 学校評価アンケート全般について、生徒・保護者の満足度は高い。特に、授業や進路指導に関する生徒の満足度は、顕著に高い数値となっている。
- ・ 教員の生徒に対する親身・熱心な指導に対しては高い評価を得ている一方、保護者からは、先生により授業に差がある、授業評価による改善はあまり体感できない等の意見もあった。
- ・ 長期休業中の講習の充実、自習室の設置、トイレの改善や校内清掃の徹底等を求める回答が多い。
- ・ ライフ・ワーク・バランスについては、今後一層の改善に向けて取り組む必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 学校評価アンケート結果からは、探究活動の充実、一部授業について工夫・改善が必要であること、指定校の取り組みや成果についてもホームページ等広報活動の充実が必要であること、また、長期休業中の講習の充実や自習室の設置、校内環境の改善についても多くの要望があることが分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 進学指導重点校の中で、倍率が低かった本校は、ハード面、ソフト面の課題と本校の良さをうまく広報できていない面も一因であり、現在進めている「探究学習」を軸に、台湾・カナダとの国際交流活動等を含め本校の良さと独自性を具体的に地域に周知していくことが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・ 生徒、保護者に対して、学校のランドデザイン、育成する8つの学力、具体的な手立て、授業評価をもとにした改善について説明し、理解を得る。
- ・ 広報活動や公開授業等を通して、地域の人々から関心を持たれ、理解されるように努める。

(2) 学習指導

- ・ 探究的な学習の推進・充実と授業改善を図り、学力向上に努める。

(3) 特別活動

- ・ 生徒の規範意識・ルール意識の向上を図り、学校行事の生徒による自主的運営の質の向上に努める。

(4) 生活指導

- ・ 公共交通機関や自転車による登下校のマナーの向上、盗難への危機管理意識を高め、地域から支持される学校を目指す。

(5) 進路指導

- ・ 進学指導重点校として、最難関国公立大学への受験者・現役合格数を増やすために、第1グループ（最難関国公立大学）受験層を伸ばすとともに、第2グループ（難関国公立大学）受験層を伸ばす指導を工夫し、意識の強化につなげる。

(6) 健康・安全

- ・ 保健の授業やセーフティ教室により、健康と安全に関わる教育の充実を図る。
- ・ 宿泊防災訓練や避難訓練を通して、災害時に臨機応変に対応できる判断力と行動力を育てる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
6	2					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】なし 【成果】なし

- ・ 委員の意見を参考に、文化祭において地域との交流機会を設け、連携強化を深めた。

8 その他

- ・ 保護者のアンケート回収率をさらに高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・ 評価精度の更なる向上を図るため、近隣の小中学校との連携を進める等、地域との関係性を重視した取り組みを推進していく。